

V34a 神岡レーザー干渉計による重力波観測

大橋正健 (東京大学宇宙線研究所)、CLIO グループ

重力波次期計画は、神岡地下に基線長 3km の低温レーザー干渉計を建設する LCGT 計画であり、その実現に向けて努力が続けられている。このような地上の観測装置が有力な重力波源として想定しているのは、連星中性子星の合体イベントである。合体時にはチャープ信号という特徴的な重力波形を発生し、ブラックホールを形成するはずである。米国の LIGO は乙女座銀河団の距離で起きるチャープ重力波を捕らえる感度を持つが、まだ重力波を検出してはならず、さらに一桁感度をあげる（イベント数が千倍になる）べく、Advanced LIGO への改造を開始した。LCGT の目標感度は Advanced LIGO とほぼ同じであり、年間数イベント以上を検出できると予測している。

LCGT 計画の準備研究として、神岡地下スーパーカミオカンデの近くにサファイアミラーを装着した基線長 100m の低温レーザー干渉計 CLIO が稼働中である。ここでは、ミラー冷却能力や低温での防振特性に関する技術的な検証など、LCGT に向けた実証的研究を進めている。それだけではなく、振動環境の良い地下に設置された利点を活かし、べらパルサーからの連続重力波を狙った試験観測を実行しデータ解析を行ったので、それを報告する。また、最近の感度向上についても報告する。